

著 書

1. Self Training Based on Motion Analysis -動作分析から考える自主トレーニング- (共著) 編集工房ソシエタス, 2021.
2. 脳卒中運動学 (共著) 運動と医学の出版社, 2021.
3. 運動器疾患を学ぶ ―評価から理学療法の実践まで― (共著) 編集工房ソシエタス, 2022.
4. 理学療法評価を学ぶ ―トップダウン評価の神髄に迫る― (共著) 編集工房ソシエタス, 2022.
5. Physical Therapy from Case Reports―症例から学ぶ理学療法― (編集) 編集工房ソシエタス, 2023.

論 文

1. 高橋優基・他: 聴覚刺激の刺激間隔の相違による予測の要因が筋電図反応時間に及ぼす影響. 関西理学 11: 41-45, 2011.
2. 高橋優基・他: 意識的には認識できない小さなリズムの変化が予測に基づく反応運動に及ぼす影響. 理学療法科学 28: 249-252, 2013.
3. 高橋優基・他: 意識的には認識できない小さなリズムの変化が予測に基づく反応運動に及ぼす影響 ―基本間隔を延長したパターンによる検討―. 理学療法学 41: 306-311, 2014.
4. 高橋優基: 聴覚刺激の刺激間隔の変化に対するリズムの予測が筋電図反応時間に及ぼす影響. 関西医療大学大学院修士論文集 2013: 119-137, 2014.
5. 高橋優基・他: 聴覚刺激のリズムの変化率の違いがリズムミカルな反応運動に及ぼす影響. 関西理学 14: 49-58, 2014.
6. 高橋優基・他: 一定間隔を意識しながら打つ手拍子のリズムの変動について ―聴覚刺激に合わせて手拍子を打つ練習の前後での比較―. 臨床神経生理学 47: 175-181, 2019.
7. 高橋優基・他: リズム課題を用いた研究から臨床を考える. 関西理学 19: 42-47, 2019.
8. 高橋優基・他: 機能障害を改善するための筋力評価での工夫. 関西理学 22: 59-66, 2022.
9. 高橋優基・他: リズム聴覚刺激が歩行のステップ時間と体幹加速度に与える影響. 理学療法科学 39: 91-99, 2024.

学会発表

1. 足部へのアプローチにより立脚相における体重移動が改善した両変形性膝関節症の一症例 兵庫県理学療法士会神戸西ブロック新人発表会 (2009, 兵庫)
2. 聴覚刺激の刺激間隔の相違による予測の要因が筋電図反応時間の短縮に及ぼす影響 第50回近畿理学療法学会 (2010, 和歌山)
3. 当院における退院後訪問の意義について ―2症例の考察より― 第12回兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会 (2011, 兵庫)
4. 左上肢・肩甲帯にアプローチし T 字杖での歩行が改善したことで外出する機会が増えた

頸椎症性脊髄症の一症例 リハビリテーション・ケア合同研究大会 (2011, 熊本)

5. 左下肢の感覚障害により左立脚中期から後期で骨盤左回旋・右下制が生じ右立脚相で転倒傾向を認めた頸椎症性脊髄症の一症例 第 11 回関西理学療法学会症例研究学術大会 (2011, 兵庫)
6. 基本周期の 5%短縮した刺激間隔を挿入した刺激系列の周期性の変調は筋電反応時間を遅延させない 第 52 回近畿理学療法学術大会 (2012, 奈良)
7. 意識的には認識できない小さなリズムの変化が予測に基づく反応運動に及ぼす影響 ―基本間隔を延長したパターンによる検討― 第 48 回日本理学療法学術大会 (2013, 愛知)
8. 聴覚刺激の刺激間隔の変化がリズムの予測に基づく反応運動に及ぼす影響 ―筋電図反応時間による検討― 第 49 回日本理学療法学術大会 (2014, 神奈川)
9. 聴覚刺激のリズムの変化率の違いがリズムカルな反応運動に及ぼす影響 第 14 回関西理学療法学会症例研究学術大会 (2014, 兵庫)
10. 基本間隔の 7%以内のリズム変化は予測に基づく反応運動を遅延させない 第 50 回日本理学療法学術大会 (2015, 東京)
11. 聴覚リズムの変化による予測の乱れがその後の反応運動に及ぼす影響 第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (2016, 京都)
12. 一定間隔を意識して打った手拍子のリズム変動について 第 47 回日本臨床神経生理学会学術大会 (2017, 神奈川)
13. 一定間隔を意識して打つ手拍子のリズム変動について ―練習回数の違いによる変化― 第 48 回日本臨床神経生理学会学術大会 (2018, 東京)
14. Rhythm Fluctuation in Hand Clapping with Awareness of Constant Intervals: A Comparison between 500-ms and 400-ms Intervals. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (KOBE, JAPAN, 2019)
15. 練習前後での一定間隔を意識して打った手拍子のリズムの正確性について 第 49 回日本臨床神経生理学会学術大会 (2019, 福島)
16. 一定間隔を意識して打つ手拍子の正確性向上の持続について 第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (2020, 京都)
17. 聴覚刺激を 2 回および 20 回呈示した後に一定間隔を意識して打った手拍子のリズムの正確性について 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会 (2020, 京都)
18. 聴覚刺激の刺激間隔の違いが手拍子の正確性向上に与える影響 第 58 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (2021, 和歌山)
19. 聴覚刺激の刺激間隔の違いが歩行のリズムと前脛骨筋の筋活動に与える影響 第 27 回日本基礎理学療法学会学術大会 (2022, 大阪)
20. 周期的な聴覚刺激が歩行のテンポと加速度に与える影響 第 34 回兵庫県理学療法学術大会 (2023, 兵庫)
21. 自然歩行と同テンポの聴覚刺激が歩行開始時のテンポと加速度に与える影響 第 28 回

日本基礎理学療法学会学術大会（2023, 広島）

22. 歩行前のリズム聴覚刺激が歩行開始 5 歩のステップ時間と体幹加速度に及ぼす影響

第 42 回東北理学療法学会学術大会（2024, 青森）

23. 歩行前のリズム聴覚刺激の呈示が歩行開始 5 歩のテンポの遅延に及ぼす影響 第 29 回

日本基礎理学療法学会学術大会（2024, 東京）

研究業績

関西理学療法学会 平成 26 年度助成研究

「聴覚刺激のリズムの変化率の違いがリズムカルな反応運動に及ぼす影響」

研究代表者 高橋優基